職位/Position 教員氏名/ Name 准教授 松田 世治	オフィスアワー/Office hours 火・木・金の昼休み、金2時限目	研究室/Office number F212

教員の所属学会並びに社会活動・課外活動顧問など/Affiliated Academic Society & Social Activity

Turnaround Management Association(TMA)、日本ターンアラウンド・マネジメント協会、日本事業再生士協会、国際ビジネス研究学会、異文化経営学会、

ゼミ名/Seminar

戦略と組織の研究 ～企業経営理論の応用・実践～

２年次までに修得していることが望ましい科目/

Preferable courses should be taken before the end of second-year studies

経営学総論、マーケティング論、マーケティングリサーチ、経営組織論、人事労務管理論、経営戦略論、経営管理総論から３科目程度履修が望ましい

研究指導内容とその進め方/Teaching system and content

Ⅰ．初年度（３年次）/First year(third-year students)

ゼミ形式(最大でも15名程度)であることを活かし、その時々のテーマや課題に対する発言・発表、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの演習（アウトプット）中心で運営しています。これは卒業後の社会やさまざまな組織での協働に参加・貢献し、そして自ら成長するための基本的なスキルになるからです。そのような意識を持ってゼミに参加してくれることを期待します。

ゼミナールで扱うテーマは、経営戦略論、マーケティング論、組織論、経営分析論などの企業経営理論です。１、２年次の講義でインプットした知識や理論をもとに、個人/グループでケーススタディ（事例研究）や課題などへの取り組みを通じて気づきや理解を深めて下さい。同時に、基本的な知識や理論の応用力や実践力を身につけ、各人の専門性（専攻）の確立や卒業後の自身のキャリア設計に繋げてもらいたいと考えています。

Ⅱ．次年度（４年次）/ Second year（fourth-year students）

４年次は、それぞれの興味関心のあるテーマや対象(企業等)を選択・決定し、それについての調査・研究活動を発表(プレゼン)してもらいます。ゼミのなかで討議しながら卒論テーマの理解や洞察を深めながら、完成を目指します。研究を進めるために必要な情報収集や文献考証、具体的な研究手法などについては適宜指導します。４年次の卒論研究を通じて、ビジネスシーンで通用するロジカル・シンキングやライティングスキルの修得を目指して下さい。

Ⅲ．卒業論文の指導、その他指導について/Graduation thesis guidance and others

有（卒業研究・卒業論文は、皆さんの４年間の学問・研究活動の集大成(卒業作品)と考えています）。

＊資格取得については、ライセンス(資格予備校)ビジネスに関わった経験から広くアドバイスできます。特に、経営コンサルティングと関連性の高い資格(中小企業診断士、MBA(経営学修士号)など)については、具体的なアドバイスと指導をすることが可能です。

教科書、参考書などについて/Textbooks, reference books

高橋 伸夫(2006)『経営の再生―戦略の時代・組織の時代＜第3版＞』 有斐閣

城 繁幸(2006)『若者はなぜ3年で辞めるのか? 年功序列が奪う日本の未来』光文社(光文社新書)

沼上 幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略(有斐閣アルマ:Basic)』 有斐

佐藤他編著(2012)『アカデミックスキルズ(第2版)-大学生のための知的技法入門-』慶応義塾大学出版

＊その他は、ゼミ活動や研究の進捗にあわせて適宜提示します。

ゼミライフ：(合宿、ゼミ会等)/Seminar activities(meetings, training camps)

学問・研究活動の場としてのゼミであるのと同時に、親睦を深め、切磋琢磨できる場としてのゼミをコンセプトに、ゼミ生の自主的な企画・運営を期待し、また尊重します。

ゼミ生に対する要望・注意等/Requests, comments

上記(Ⅰ～Ⅲ)の２つの出口(卒論と進路決定)に向けて、ゼミ内(外)で個人、グループ、ゼミ全体で取り組む姿勢と貢献意欲を持った学生を歓迎します。第11期生の募集となります。型にはまらずゼロから作り上げていくことにやりがい・おもしろさを感じられるベンチャー精神を持った学生を特に歓迎します。

ゼミナール活動を通じ、ゼミ生全員にはビジネスシーンのコミュニケーション能力の基本となる報連相（報告・連絡・相談）をスキルとして習得してほしいと考えています。